国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism
Press Release

令和７年 12 月 10 日
国土政策局地方政策課

令和7年度「地域づくり表彰」国土交通大臣賞 表彰式を開催します

～ 北海道網走市、長野県塩尻市、愛媛県今治市の3団体を表彰 ～

国土交通省は、関係団体との共催・後援で、創意・工夫ある「地域づくり」活動の優良事例を表彰する「地域づくり表彰」を昭和59(1984)年以来実施しており、第42回目にあたる本年度は去る11月20日に国土交通大臣賞等を決定したところです。
このたび、令和7年度「地域づくり表彰」国土交通大臣賞 表彰式を以下のとおり開催いたしますので、お知らせいたします。

1. 日 時 令和7年 12 月 22 日(月) 13:30～14:30(予定)

2. 場 所 中央合同庁舎2号館 12 階 国際会議室（東京都千代田区霞ヶ関2－1－2）

3. 授与者 及び 受賞者

授与者: 国土交通大臣政務官 加藤 竜祥（予定）

受賞者:(1)**MOTレール倶楽部(北海道網走市)** (代表:石黒 明 会長)
(2)**塩尻Lab(長野県塩尻市)** (代表:保延 祐希 プロジェクトリーダー)
(3)**せとうちみなとマルシェ実行委員会(愛媛県今治市)**(代表:越智 逸宏 会長)

※ 上記は、全国地方公共団体コード順で、カッコ内は、活動団体等の所在地及び推薦団体
※ 国土交通大臣賞以外の各賞の表彰式の詳細等は、令和7年 11 月 20 日プレスリリースの受賞団体の問合せ先にお問合せください

4. 議 事
(1)開 会
(2)主催者挨拶 (加藤 竜祥 国土交通大臣政務官)(予定)
(3)表彰状授与(記念撮影)
(4)閉 会 (※式後、受賞者の答辞等、懇談予定)

5. 傍聴・取材(カメラ撮り含む)を希望される方に
○ 会場容量の都合上、報道関係者に限り、開会から閉会まで傍聴・取材が可能です。希望者多数の場合、1社(団体)につき1名とさせて頂く場合もございますので予めご了承ください
○ **ご希望の方は**、令和7年 12 月 17 日(水)16:00 までに、氏名(ふりがな)、所属・連絡先(電話番号・メールアドレス)をご記入の上、メールにてお申し込みください ＜送付先アドレス＞ baba-k2sa★mlit.go.jp ※★を@に変換の上、送信ください。
※ **取得した個人情報は適切に管理し、必要な用途以外に利用しません**

6. 参 考
(1)令和7年度「地域づくり表彰」受賞団体決定 (令和7年 11 月 20 日プレスリリース)
https://www.mlit.go.jp/report/press/kokudoseisaku09 hh 000177.html
(2)「地域づくり表彰」特設サイト (一般財団法人国土計画協会)
https://www.chiikizukuri.kok.or.jp/

地域づくり表彰については
地域づくり表彰 で検索

問合せ先:
国土政策局 地方政策課 課長補佐 渡部、 主査 馬場
代表:03-5253-8111 (内線 29-422, 29-404)、
直通:03-5253-8363

別添資料

国土交通大臣賞　（総合的に最も優れた取組）　３事例　（全国地方公共団体コード順）

ＭＯＴ（もっと）レール倶楽部（北海道網走（あばしりし）市）

～ 鉄道を活かした 地域おこし ～

●活動の概要

「ＭＯＴ（もっと）レール倶楽部」は、網走市を拠点に鉄道愛好家たちが参集し「まじめに・おもしろく・地域と鉄道を考える」をモットーに地域おこしに取り組むボランティア団体。

最初は「オホーツクにＳＬを走らせたい」という思いから始まり、次いで地元の食を活かした「オホーツク食い倒れ号」の貸切列車。

これをきっかけに実際に「ＳＬオホーツク号」の運行にこぎつけ、その歓迎委員会を行政・鉄道事業者との協業で行う。

さらに冬の観光列車「流氷物語号」では、名作ゲームとの連携も実現。メンバーが沿線を案内し、グッズも企画し販売し、鉄道に興味が無かった人々も誘客。地域はもちろん全国からの来場者に「マイレール」意識を醸成させている。

コラボ列車に設置された乗車記念ボードで撮影をする乗客

北浜海岸で地域住民とともに大漁旗で列車を大歓迎

●選定理由

地元の食・文化・風景等に着目し、それを活かした企画を提案していくだけでなく、４０年前のゲームに着目した着眼点と、全国各地に味方を作り、権利者や事業者等を熱心に説得し連携にこぎ着けた熱意や関係者への根気強い働きかけ等は着目に値する。

観光列車に地域住民が手を振る活動なども地道ながら地域の「マイレール」意識の醸成にもつながり、地域づくりをわが事とするきっかけとしても、また関係人口創出の機会としても注目される。

また、周辺の世界自然遺産や国定公園の案内も含めたジオツーリズムの展開や、ゲームの聖地巡りなどで、より広い範囲に波及効果を生んでいる点も注目される。

鉄道愛好家が集まってスタートした活動が、地域を巻き込み、創意工夫で入り込み客数を着実に伸ばしている。鉄道、ゲームというニッチでコアなファン層にターゲットを絞り、彼らにヒットする企画や製品を次々とチャレンジしたことが独自性を生み、ブランド力にもつながっている。また、子ども向け学習貸切列車によって、子供のころから地域資源を知り「マイレール意識」を醸成させるような取組も、地域の未来にとって重要である。全国には廃線危機に直面している鉄道が多くあるが、内外のファンの力の創意工夫で新たな価値を創出できたという実例として元気をもらえる取組といえる。

■問合せ先■　網走市　観光商工部　☎ 0152-67-6707

国土交通大臣賞　（総合的に最も優れた取組）　３事例　（全国地方公共団体コード順）

塩尻Ｌａｂ（ラボ）（長野県塩尻市（しおじりし））

～ 外からの人材と地域をつなぎ挑戦を生む ～

●活動の概要

「塩尻Ｌａｂ（ラボ）」は、地域住民と都市部等の外部人材（関係人口）とが協働で地域課題の解決から魅力を見いだし、そしてその具体的実装までも行う実践的「プログラム」かつ「コミュニティ」。

地域住民が発議した今直面するリアルな地域課題を、都市部に住む人々が一緒になって問題の解決や魅力の再発見に繋げ、その成果を『仕様書』としてまとめ、その問題解決の担い手探しや実装までも行う「実践」に重きを置いていることが特徴。

オンラインミーティングだけでなく、現地のフィールドワークも行うことで、内外の人々の敷居の低い・新しいコミュニティづくりにも繋がっている。

特産品から地域課題まで幅広いテーマで
地域資源の磨き上げや活用に取り組むメンバー

フィールドワーク中の対話の様子

●選定理由

「塩尻Ｌａｂ」は、地域住民と外部人材との協働による地域課題を解決するプログラムの組成から、実践までも促す仕組み。既に20を超える地域課題のテーマが取り上げられ、その検討のために100名を超える「関係人口」が生まれている等、量的な実績を積んでいる。

それだけでなく、「ワイン用ぶどうの栽培プロジェクト」の参加をきっかけに「二地域居住」を始めた人も出る等、「二地域居住」の優れたゲートウェイにもなっており、「二地域居住」促進の極めて優良なモデルである。

また、外部人材が地域で活躍し、輝き、地域と協働するためには、地域内外の人材が交じり合い、ごちゃ混ぜになることが重要であるなかで、そうした機能を果たすコワーキングスペース「スナバ」や、人材と地域の適切なマッチングを促す仕組みを整えていることも、地域の暮らしの「見える化」を通じ「わがまち」意識の向上につながっている。

これらの仕組みは、二地域居住者や本格的な移住者の目にも、大きな魅力として映るだろう。

既存の移住者や地元住民にとっても、居住年数の多寡に依らず、地域課題の「発議者」になり、多様な人材とともに地域の課題解決に当事者として関われる機会が得られるラボの存在は、常に新しい刺激に出会え、「わがまち」意識の向上や、移住者の定着、若者の転出の低減等にも繋がっていくだろう。

■問合せ先■　塩尻市　企画課　☎ 0263-52-0280

国土交通大臣賞　（総合的に最も優れた取組）　３事例　（全国地方公共団体コード順）

せとうちみなとマルシェ 実行委員会（愛媛県今治市）

～ しまなみ海道開通で低下した港や町の賑わいを
マルシェで新たな人の出会いの場として復活 ～

●活動の概要

歴史的に瀬戸内における海の玄関口であり、造船で賑わった今治港も、「しまなみ海道」の橋々の開通により、交通の結節点としての役割が低下してしまった。そこで「交通の港」から「交流の港」への脱皮を狙い「瀬戸内のうまいに出会えるマルシェ」を展開することとした。

月２回の開催だが、多種多様な100余の店舗が出店。焼豚玉子飯、鉄板焼鳥等のご当地グルメの販売や、地物魚の競り市の開催など、今治らしさを発揮する場にもなっている。

現在では夏限定の夜マルシェやクルーズ船運航など様々な取組の実験場ともなっており、中心商業地への導線づくりなどにも繋がってきている。

海と港を楽しむ交流の場、せとうちみなとマルシェ

来島海峡大橋・急潮流などを間近で体感できる爽快ミニクルーズ

●選定理由

「しまなみ海道」開通により、港や中心市街地の衰退がもたらされてことに危機感をおぼえ、「せとうちブランド」との出会いの場として「食」をきっかけに、今治の地域資源の発露の場として再定義した。

また、登録店舗数が600あるなかで、月に２回という希少性と出店数を毎回100余に絞ることで毎回新鮮な出会いと、出展者間の競争による磨き上げが進んでいること。

毎回、新たな出会いが生じ易く、リピーターを生んでいること、市や商工団体だけでなくボランティアや学生などの活躍の場が開かれている点などで、官民連携の多様な主体による持続可能な運営体制ができていることで、地域コミュニティの活性化に繋がっている。

集客力の向上により、周辺市街地への回遊性向上にも資しており、中心市街地全体の新たな人の流れと賑わいの牽引車と言える存在となっており、数多くの創意工夫は、同じく港地区の再生に悩んでいる他地区の参考や手本となる取組といえる。

■問合せ先■　今治市　総合政策部　観光課　☎ 0898-36-1541